

公益財団法人セゾン文化財団


セゾン・アーティスト・イン・レジデンス、ヴィジティング・フェローの紹介

公益財団法人セゾン文化財団では、2016年度の「セゾン・アーティスト・イン・レジデンス、ヴィジティング・フェロー」の一環として、バンコクを拠点に活動するダンサー、振付家のピチェ・クランチェン氏をお迎えいたします。

ピチェ・クランチェン氏はタイの古典舞踊を基礎とし、伝統と現代の感性をつなぐ独自の身体表現を探究する作品を展開しています。日本では、ピチェ・クランチェン・カンパニーとして、2016年、『Dancing with Death』(TPAM in 横浜)を初演したほか、2015年に『Black & White』(TPAM in 横浜)、2010年に『About Khon』(Kyoto Experiment)などを発表しております。

セゾン・アーティスト・イン・レジデンスでは、フェスティバル／トーキョーで今秋に日本で発表予定の新作のリサーチとして、「The Walk」をテーマに東京で日常を過ごす人たちの歩行を観察するフィールドワークを行います。ヴィジティング・フェローでの滞在期間中、日本の舞台芸術の状況や背景、魅力などを発見していただくため、多くの舞台芸術関係者と交流していただきます。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

- 滞在期間 2017年3月9日(木)-29日(水) 予定
 - *3月28日(火)午後7時から森下スタジオでパブリック・トークを開催予定
 - *3月17日(金)・18日(土)、都内スタジオで出演者オーディションを開催詳細はフェスティバル／トーキョーのホームページをご覧ください。<http://www.festival-tokyo.jp/>
- 滞在场所 森下スタジオ (東京都江東区森下3-5-6)
- 滞在目的 「The Walk」
滞在目的:フェスティバル／トーキョーで今秋に上演予定の新作のリサーチとして、東京で日常を過ごす人たちの歩行を観察するフィールドワークを行う。歩くりズムやパターン、スタイル等に着目し、社会やコミュニティとの関係性を模索する。

 平成28年度文化庁「アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業」



ピチェ・クランチェン

プロフィール

ピチェ・クランチェン(Pichet Klunchun) タイ

タイの古典仮面舞踊劇「Khon(コーン)」の第一人者、チャイヨット・クンマナーのもとでタイの古典舞踊を学ぶ。バンコクのチュラロンコン大学でタイの古典舞踊の学士を取得後、ダンサー、振付家として活動を始め、伝統と現代の感性をつなぐ独自の身体表現を探究する作品を展開している。

クンステン・フェスティバル・デザールやチューリッヒ・テアター・シュペクターケル、リンカーンセンター・フェスティバル等、世界有数のフェスティバルで作品を発表。欧州文化財団から「文化的多様性のためのマルフリート王女賞」(2008)、フランス政府から芸術文化勲章「シュバリエ」(2012)を受けるなど、数多くの賞を受賞している。